海上保安庁
海洋情報資料館

ご案内

明治４年９月、明治政府は、海運立国を国政方針とし、国防及び国益的見地から、現在の海上保安庁海洋情報部の前身である兵部省海軍部に水路局を設け、初代局長に柳楢悦を起用し、沿岸域の測量や海図・書誌の刊行にいたる一連の業務を開始しました。

その後、水路寮、海軍水路局、海軍水路部などと名称を改称してきましたが、明治21(1885)年からは水路部と呼ぶようになりました。

終戦後の昭和20年(1945年)に運輸省に移管され、その後、同23年(1948年)に発足した海上保安庁に編入され、平成14年(2002年)に名称を「海洋情報部」と改め現在に至っております。

本資料館には、幕末から明治初期にかけて西欧諸国の海図作製の理論と技術を導入して始まった水路業務の歴史紹介、明治から昭和にかけて海の深さや天文、潮汐、潮流などの観測で使用していた実物の測定器や伊能図模写、海外の海図、測量船模型などが展示されています。

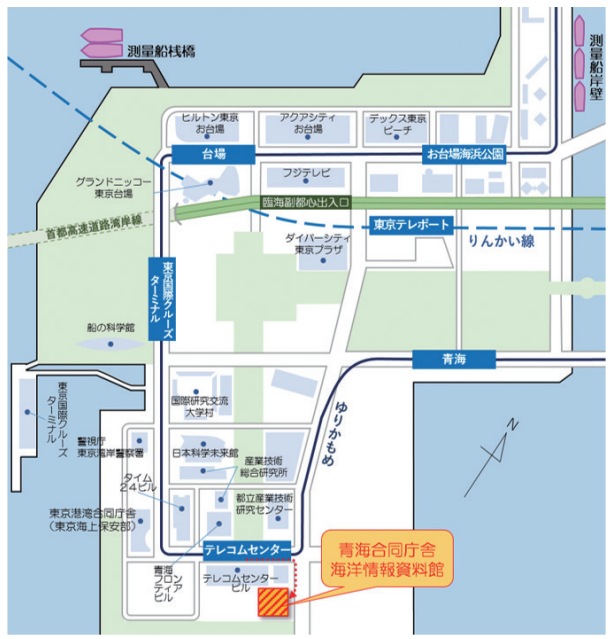
また、海上保安庁の最新調査で明らかになった日本周辺の海底地形を立体的に見ることができる「大型３Ｄ海底地形図」の展示や、古くなり役目を終えた海図を再利用してオリジナル紙バッグを作る「工作コーナー」などもあります。

■開館時間　10時～17時(12時～13時は閉館)

■休 館 日　月、火、年末年始(12月29日～1月3日)

■入 館 料　無料

■アクセス



ゆりかもめ「テレコムセンター」駅　徒歩５分

※　駐車場はありません。来館の際は公共交通機関をご利用いただくか、近隣のパーキングをご利用ください

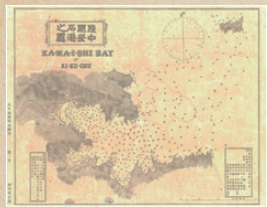
■場　　所　東京都江東区青海2-5-18
青海合同庁舎1F

■電　　話　03-5500-7155

我が国の海図作製のはじまり ～幕末から明治初期～

幕末から明治初期にかけて西欧諸国の海図作製の理論と技術を導入し、国防や航海安全の目的で始まった日本の海図作製初期の歴史や当時の海図を展示しています。

初代水路局長柳楢悦（やなぎならよし）
「外国人を雇用せず、自力をもって外国の学問技術を選択利用し、改良進歩をはかるべし」の精神のもと近代水路業務を推進



海図第一号「陸中國釜石港之圖」（明治５年）

海軍水路部の成果 ～明治初期から昭和初期～

軍港など海軍内部で使用するために作製された秘密海図や海図の補助資料として使用する水路誌などを展示しています。

秘密海図

水路誌

日本と世界の珍しい貴重な地図 ～幕末から明治初期～

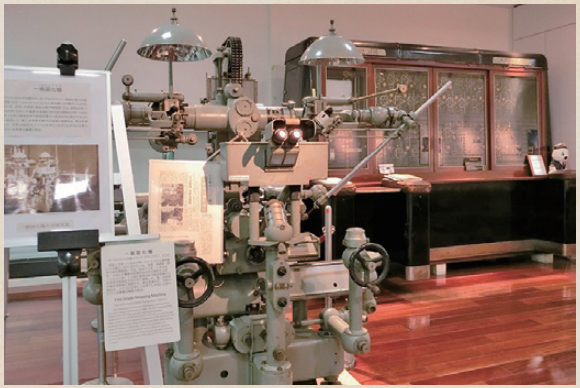
マーシャル諸島の島民がカヌーの航海用に使用していた貝殻やヤシの枝葉を用いたスティックチャート、伊能図（謄写図）のうち、海洋情報部だけが所蔵しているもの等を展示しています。

伊能図（謄写図）

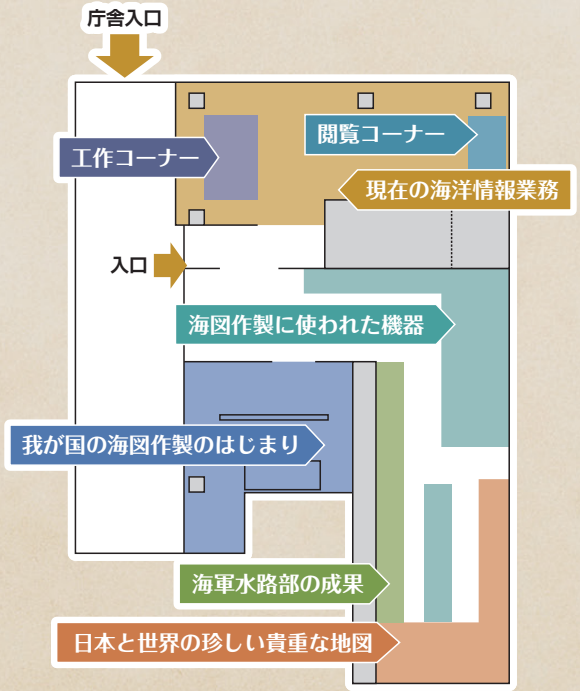
スティックチャート

海図作製に使われた機器 ～昭和初期から昭和中期～

潮の満ち引きの予報を計算する潮候推算機（英国製、2012年産業技術遺産認定）や２枚の写真から波浪を図化するために使用した一級図化機（ドイツ製）など、歴史的に貴重な機器を展示しています。



館内案内図



現在の海洋情報業務

最新の海洋情報業務で使用する機器や、3D眼鏡をかけて海底地形を立体的に見ることができる大型3D海底地形図を展示しています。

工作コーナー

世界に一つしかないオリジナルの紙バッグや測量船等のペーパークラフトを作成することができます。

※作成した作品は、持ち帰ることができます。

閲覧コーナー

海上保安庁が刊行する海図を閲覧することができるほか、「海図アーカイブ」所蔵目録に掲載される各種資料の高解像度画像を閲覧することができます。

海図の閲覧

海図アーカイブの閲覧